

# テーマ：身体表現

東池袋第二保育園(豊島区)

## テーマを設定する

のびのびと体を動かせる広い遊戯室があり、身体を動かすことや踊ることが大好きな子ども達。しかし、集団での活動や大勢が見ていると「はずかしい」と、やりたがらない子どももいる現状があり少しずつでも、体を動かして楽しんだり表現方法の幅を広げたいと選んだ。

## 活動 アーティストワークショップ1～4

友だちの動きの真似をしたり、身体の部位をくっつけてポーズをしたり、身体でトンネルをつくってお互いにくぐり合うなど、身体を使った表現活動、コミュニケーションワークを実施。成果発表会では、5歳児を招待し、子どもたちがデモンストレーション役となって見本を見せながら、共に身体表現活動を楽しんだ。

## 環境をデザインする

●準備した物 ロール段ボール、マスキングテープ、油性マジック、ホチキス、クレヨン、セロテープ、色紙、お花紙、リボンなど各種素材、楽器(ドラムセット[講師が演奏])

## 探究活動を実践する

### ●活動内容(1日目)

1. 「まねっこ」みんなでアーティストを囲んで動きと言葉をまねする。
2. 「身体でトンネル」2人組で身体でトンネルをつくってくぐり合う。最後にアーティストや保育士たちがトンネルとなり、子どもたちがくぐってまわる。
3. 「なんぼんあし？」アーティストが指定する数の分、身体の部位を床にくっつけてポーズ。そのポーズのまま動いてみる。
4. 「いろんな進み方」ジャンプで進む、床に寝転がって回転、お尻歩き、背泳ぎ進みなどを試す。

※2日目はペアになって指定された身体の部位をくっつけてポーズをとる「くっつきポーズ」や、ペアになってパートナーと視線を合わせながら動いていく「アイコンタクト」を実施。3日目は同テーマに基づき、踊りたくなる衣装づくりの造形ワークショップを実施。4日目の成果発表会では、5歳児を招待して、活動の内容のデモンストレーションを4歳児が行った。

### ●子供たちの様子

- ・身体を使ったトンネル遊びでは、子どもたちが身体をつなげて長いトンネルをつくり始めるなど、繰り返し同じ内容の活動を行っていく中でも、子どもたちの発想による表現の変化が回を重ねる毎に見受けられるようになった。
- ・ドラムの音に触発されて、子どもたちの表現が、より大きくのびのび変化した。

## 活動スケジュール(4歳児クラス)

活動内容	実施日	時間/回	人数/回
① アーティストワークショップ1 講師：楠原竜也(振付家・ダンサー)他3名	R7.9.10 (水)	60分程度	16人
② アーティストワークショップ2 講師：楠原竜也(振付家・ダンサー)他3名	R7.9.11 (木)	60分程度	18人
③ アーティストワークショップ3 講師：水内貴英(美術家)	R7.12.9 (火)	60分程度	18人
④ アーティストワークショップ4 講師：楠原竜也(振付家・ダンサー)他2名	R8.1.27 (木)	75分程度	15人
⑤ 異年齢グループでの活動のほか、子どもや保護者がドラムを作り園内パレードを行った。	R7.10～ R8.2まで	各30分から60分	18人から56人



## 振り返りをふまえた気づき

### ●保育士から

- ・外部講師の表現力やダンスの魅力に惹かれて、はじめは照れていた子たちも気が付いたら身体を動かして参加していた！という変化を目の当たりにした。ワークショップで楽しく表現できたことが自信となって、園内の発表会では、人前に出て何かすることが苦手だった子も、主体的に参加することができた。
- ・ドラムセッションでは、生演奏の迫力ある音とリズムの魅力が加わり、音という要素がひとつ入るだけで、子どもたちの表現が感覚が開放されていく姿をみるのができた。身体表現の可能性を感じ、活動のレパートリーが増えたので、日ごろの保育にも活かしたい。